

# 市民記者が行く! 広報サポーターレポート



## 障害者の自立に向けたサポートと ボランティア活動



広報サポーター  
野田光成さん(今川町)

私は、知的障害のある方が自立に向けて一生懸命に働く姿とそれを支える地域のボランティア活動について取材しましたので、レポートします。

今回は、主に知的障害のある方への福祉サービスなどを行い、市の知的障害者(児)の相談支援事業所でもある社会福祉法人「くるみ会」について取材しました。くるみ会は、知的障害のある方への日常生活を支援しよ



▲家庭的な共同生活を送りながら、自立した生活への支援を行う里山の家(家武町)



▲ハウスで多年草植物の栽培やダンボール箱の製造など、さまざまな作業に取り組む施設利用者たち



うと発足し、昭和55年に社会福祉法人として厚生大臣の認可を受けました。翌年には、知的障害のある方が、自立に向けて職業を通じながら日常生活の訓練を行う通所授産施設の西尾作業所(現在は多機能型事業所にお)を家武町に開設しました。その後、時代や地域のニーズに合わせ、日常の活動を支援する

授産所や、家庭的な共同生活の中で日常生活のサポートなどを行い、個々の成長を支えるケアホームなどを市内に開設しました。各施設の利用者は約240人で、皆さん元気にそれぞれの目標を持って活動しています。施設利用者は、個性に合わせてさまざまな日常生活を送っています。「環境事業グループ」では、多年生植物の栽培や、生ごみと食品トレーのリサイクル作業を行っていました。また、「軽作業グループ」では、ダンボール箱やクッション材の製造を行っていました。重い障害のある方は、健康や体力づくりの一環として、足を椅子の高さまで上げて柵を乗り越える体操をしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして元気に活動していました。

地域からサポートする方もたくさんいます。昨年の11月26日には多機能型事業所におで、ボランティアによる慰問活動が行われました。この慰問活動は10年以上続いているそうで、この日は舞踊、カラオケ、紙芝居などが行われました。この日を楽しみにしていた約40人の施設利用者は、紙芝居を見て笑ったり、みんなで歌を歌ったりして

楽しんでいました。慰問したボランティアの方は、会場が笑顔や笑い声で包まれることを生きがいに、楽しく活動しているとおっしゃっていました。私は、施設利用者やボランティアの双方が、慰問活動を通じて楽しくふれあっていることを大変うれしく思いました。

これからも、社会や地域、ボランティアの方などの支援により、「幸せ実感都市西尾」の実現に向けて、障害のある方もない方も、一緒に楽しく地域の中で暮らしていける西尾市になってほしいと願います。

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。



▲舞踊や紙芝居を披露するボランティアの皆さん